

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

1. 対象 3年生
2. 単元名 「人物の変化を読もう／モチモチの木」(全6時間)
3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。【(1)オ】
思考力, 判断力, 表現力等	登場人物の気持ちの変化や性格について叙述を基に想像して読み、自分の言葉で表現することができる。【C(1)エ】
学びに向かう力, 人間性等	登場人物の人物像や気持ち、その変化について具体的に想像し、心に残ったことについて、進んで伝えようとしている。

4. 本時の目標

各場面の豆太の気持ちがどのように変化しているのか心情曲線を使って表し、友達とその理由を話し合う活動を通して、物語の始めと終わりで豆太の内面が変化していることを理解することができる。【知識及び理解】

5. 授業展開【**本時**・単元】

解決したい課題や問い

これまでの学習で、子供たちは「～な豆太」と挿絵に題名を付けることで、物語の主な内容をつかんだ。子供たちは、始めの挿絵に「おくびょうな豆太」、最後の挿絵に「またじさまを起こす豆太」という題名を付けた。そこで教師が、「臆病だった豆太は結局最後まで変わっていないんじゃないか。」と子供たちに投げかける。すると、豆太の内面が最初と最後で変わっていることに気付いている子供たちが反対するだろう。そこで、各場面で豆太の気持ちのどのように変化しているのか心情曲線を使って表す。縦軸は0～5の目盛りで、数字が大きいほど勇敢な様子を表す。子供たちは自分が考えた豆太の気持ちの変化を可視化したことで、友達と自分の意見を比較することができる。叙述を基に自分の考えを述べたり、友達の意見を聞いて変容したりする子供の姿を期待したい。

最後に、(誰)が(きっかけ)によって(どうなった)話という形でモチモチの木をまとめることで、豆太の内面が確実に変化していることをとらえる。

考えるための材料

子供たちが、始めと終わりの挿絵に付けた題名を比べた後、教師が「臆病だった豆太は結局最後まで変わっていないんじゃないか。」と子供たちに問う。すると、子供たちが物語の中で豆太が成長していると主張するだろう。そこで、「それぞれの場面における豆太の勇敢さを矢印で表してみよう。」と投げかける。

想定される活動

・豆太の勇敢さを心情曲線によって可視化することによって、物語の始めと終わりで豆太の心の変化していることに気付く。

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

始めに個人で心情曲線を記入し、その後ペアで自分達の意見を比べ合う。友達と違うところや同じところと、その理由を話し合う。最後にクラスの友達と情報共有アプリを使って意見を共有し合い、クラス全体の考えをまとめる。

その後、「モチモチの木はどんなお話かまとめよう。」と投げかけ、【(だれ)が(きっかけ)によって(どう)なった】の形でまとめることで、豆太がじさまの腹いたをきっかけに勇敢に成長したことをおさえる。

- ・〇〇さんはオの場面が一番勇敢だと思ったんだね。僕はエの場面だよ。
- ・始めは臆病だった豆太は最後が変わってないように見えるけど心は強くなっているよ。
- ・(豆太)が(じさまの腹いた)によって(勇気を出すように)なった話だね。

学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

・最後にじさまを起こしてるから、また臆病な豆太に戻っちゃったと思ったけれど、最初と最後の豆太は一回り成長しているね。

- ・じさまを助けるために夜中に走った豆太はぜったい強くなっているよ。
- ・最初も最後も豆太は臆病だけど、最初の豆太とは違う気がするな。
- ・勇敢さを矢印にして表したから豆太がどんな風に成長したか分かったよ。